

平成28年度 宝木中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- (1) 基本目標 「人間尊重の教育を基盤に、知・徳・体の調和のとれた発達を目指し、心身共に健康で知性と創造性に富み、心情豊かでたくましく社会に生きる人間の育成」
- (2) 具体目標（具体的な生徒像）
- ①気力・体力のあるたくましい生徒（たくましく）
 - ②自ら学びよく考える生徒（さとく）
 - ③心豊かで礼儀正しい生徒（あかるく）
 - ④がまん強く進んで働く生徒（いきいきと）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校は ○子どもたちにとって居心地のよい楽しい場所であること
○教職員の「生きがい」や「やりがい」を感じる場所であること
○保護者、地域の皆様から信頼される場所であること
上記のような学校を目指し、人権尊重を基盤として、豊かな人間関係に支えられた**ぬくもりと夢のある学校**づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導要領や宇都宮市学校教育スタンダード等の趣旨をふまえるとともに、生徒の実態や学校・地域の特色を生かした特色ある教育課程の編成・実施に努める。
- (2) 生徒の実態に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図り、生徒一人ひとりの確かな学力の育成に努める。
- (3) 生徒理解を基盤として、発達の段階に応じた生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (4) 道徳の時間の充実を図り、生徒一人ひとりの道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や体験活動を一層推進し、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- (5) 家庭との連携を強化し、健康管理や体力づくり、食に関する指導の充実を図るなど、生徒が将来にわたって健康に生活していく基盤づくりに努める。
- (6) 生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育、進路指導を推進し、社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。
- (7) 保護者や関係機関等との連携を図り、生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った特別支援教育の充実を努める。
- (8) 児童生徒の9年間の成長を見通した小中一貫教育を推進し、学校園で共通理解を図りながら、宝木地域学校園が目指す心豊かな生徒の育成に努める。
- (9) よき伝統や地域の特色、教職員の創意工夫を生かした特色ある学校づくりの推進に努める。
- (10) 積極的な情報提供など家庭・地域社会との連携を一層深めるとともに、魅力ある学校づくり地域協議会を効果的に活用し生徒の地域行事への協力やボランティア活動を通して、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

【宝木地域学校園教育ビジョン】

「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成をめざします
他を思いやる心や規範意識を育み、基本的生活習慣や学習習慣を身に付けさせる指導の充実

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 生徒一人一人の自己肯定感や自己有用感を育てる活動の推進
生徒の学力向上と教員の授業力向上の推進

【学習指導】

- 学ぶ意欲を高め、基礎的・基本的学力の確実な定着を図る指導の充実

【児童生徒指導】

よりよい人間関係を育む学級集団づくりの推進（学業指導の推進）

【健康（保険安全・食育）・体力】

基本的生活習慣の定着と部活動の活性化を図る指導の充実

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答80%以上 →91.7%	① 学校行事では、生徒の自主的・主体的活動を積極的に取り入れ指導にあたる。 ② 出張の際、授業交換を積極的に行い、教員が生徒と向き合う時間の確保に努める。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答が91.7%で0.8%、教職員は100%になり昨年より2.9%上がっている。保護者は0.4%ダウンしているが、学校は活気に満ちた良好な雰囲気であるといえる。 【次年度の方針】 生徒が主体的に取り組んでいけるよう配慮することで、さらに活性化された活動の向上を図りたい。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答80%以上 →96.3%	① 教職員は、「認める、ほめる、励ます」指導に力を入れ、生徒への声かけを大切にすると共に、保護者への丁寧な対応をする。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答において、96.3%を達成しており、前年度（96.4%）とほぼ同等である。 【次年度の方針】 教職員の共通理解・共通行動を一層強化し、組織的対応を徹底する。加えて、保護者との連携を深め、共に子どもを育てる意識を共有していく。
	A3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答80%以上 →92.0%	① 「学びのルール・マナー」を設定し、チャイム着席や5分前行動などの基本的な生活習慣の定着を図り、全校体制で授業を支える学習環境づくりに努める。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答において、92.0%を達成しているが、前年度（92.7%）から微減している。 【次年度の方針】 「学びのルール・マナー」の定着をめざし、どの授業・行事においても同様に指導できるよう徹底していく。
	A4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答80%以上 →90.1%	① 生徒の考えを引き出し、深められるような発問を工夫し、言語活動の充実にも努めている。 ② 基礎的・基本的事項の確認のための小テストなどを実施し、学力の底上げに努める。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答において、90.1%を達成しているが、前年度（93.7%）から3.6%下回った。 【次年度の方針】 学習内容の定着に向けて、板書の工夫・まとめの工夫や小テスト、単元テストの実施を継続する。各種調査の結果分析に基づき、分かる授業のために教材研究に努める。
	A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答80%以上 →94.0%	① 道徳・学級活動等の授業を工夫し、いじめ根絶にむけた授業内容を厳選し、定期的実施する。 ② 「いじめ防止アンケートなどの教育相談機能により、早期発見・早期解決を図る。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答において94.0%を達成したが、前年度（95.5%）を1.5%下回った。 【次年度の方針】 いじめ未然防止を目的とした授業や集会を充実させ、意識が高まるよう工夫する。また、生徒への声かけを増やし、変化を的確に掴むことができるようにする。
	A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 生徒の肯定的回答80%以上 →94.0%	① 学校行事の目的の明確化と昨年度の反省を生かした内容の工夫改善を図る。	B	【達成状況】 生徒が2.9%、教職員が3.1%下がっている。見直しを図った行事もあるため、日課や内容を反省し、次年度につなぐことが大切である。 【次年度の方針】 授業時数の確保に努める。本年度の反省をもとに行事を見直し、工夫・改善していく。

	<p>A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上 保護者→94.2% 地域住民→100%</p> <hr/> <p>A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。</p> <p>【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上 保護者→92.6% 地域住民→95.0%</p> <hr/> <p>A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。</p> <p>【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上 保護者→94.4% 地域住民→89.5%</p> <hr/> <p>B 1 学校は、生徒の安全確保に努めている。</p> <p>【数値目標】 生徒・保護者の肯定的回答 80%以上 生徒→97.7% 保護者→92.4%</p>	<p>① 「学校だより」「学年通信」「学級通信」を定期的に発行する。</p> <p>② 授業参観・懇談会や学校公開日の回数を増やし、内容の工夫を行う。</p> <hr/> <p>① 学校行事を通して、地域協議会やPTA・保護者との連携交流を図る。</p> <p>② 地域社会との連携を深め、地域におけるボランティア活動や行事への参加・協力を推進する。</p> <hr/> <p>① 用具を充実させながら、清掃活動の活性化を図る。</p> <p>② 教室・廊下等の掲示物を精選し、きれいで見やすい掲示コーナーづくりに努める。</p> <hr/> <p>① 全職員による立哨指導を行い、危険場所を公表し、安全な登下校に努める。</p> <p>② 学校行事の際の安全確保について保護者や地域協議会の協力体制を推進する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は昨年度とほぼ同様で高い水準を保っている。地域住民の肯定的回答も昨年度同様100%である。 保護者・地域住民への発信が定期的に行われている。</p> <p>【次年度の方針】 ホームページの充実をさらに図るなど、情報発信の方法を工夫していく。</p> <hr/> <p>B</p> <p>【達成状況】 目標値は全て達成している。地域住民の値は下がったが、教職員、保護者、児童生徒の肯定的解答は上がった。PTAの活動はメディアにも取り上げられた。地域行事へのボランティア参加生徒が増えた。</p> <p>【次年度の方針】 PTA活動の活性化と地域協議会との連携をさらに強化していく。</p> <hr/> <p>B</p> <p>【達成状況】 肯定的回答は、保護者が4.2%上がり、地域住民は3.8%下がった。 清掃にまじめに取り組む生徒が増えているためか、肯定的回答が教師は4.6%、生徒は2.1%上がった。 教室内外の掲示方法の統一化や独自の工夫により、わかりやすくなっている。</p> <p>【次年度の方針】 清掃方法や用具の使い方等の細やかな指導を心がけ、継続指導をしていく。</p> <hr/> <p>B</p> <p>【達成状況】 生徒・保護者とも肯定的回答の割合は9割を超えており、良好な状況である。今年度は昨年度に課題に挙がっていた竜巻を想定した避難訓練も実施することができ、引き続き生徒の安全確保に努めていきたい。</p> <p>【次年度の方針】 児童生徒の安全確保に関わる小中連携を重視していきたい。</p>
<p>教育活動の状況</p>	<p>A 10 生徒は、進んであいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 →95.7%</p>	<p>① 全学級及び小中合同の朝のあいさつ運動を実施し、明るく活気ある学校づくりに努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答95.7%で0.8%上がった。継続的な指導により、昨年度から急上昇の成果が表れ、かなりの高水準に達している。明るく元気にあいさつをする生徒がほとんどである。 教職員・保護者の肯定的回答も上がり、定着の手ごたえを感じている。保護者の肯定的回答が77.5%なので80%以上を目指したい。</p> <p>【次年度の方針】 今年度同様に教職員が、進んであいさつを交わしていく姿勢を示す一方で、さらに保護者・地域住民にも呼びかけ、進んであいさつができる地域が一体となった雰囲気を啓発していく。 あいさつ運動を学校園共通の取り組みとしているので、さらに交流を充実させていく。</p>

	<p>A11 生徒は、正しい言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 →92.9%</p>	<p>① すべての授業において、望ましい言葉づかいの習慣化を図る。</p> <p>② 相手や場に応じた適切な言葉づかいの指導と共に、他人の話を聴く態度の育成を図る。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答において 92.9%を達成しており、前年度(90.3%)を2.6%上回った。</p> <p>【次年度の方針】 学校生活全般において、生徒・教員共に正しい言葉遣いを意識して活動できるよう、意識を更に高めていく。また、家庭においても同様に生活できるよう、保護者へ協力を呼び掛けている。</p>
	<p>B2 自分は、身近なルール・マナーを守っている。</p> <p>【数値目標】 生徒の肯定的回答 80%以上 →96.6%</p>	<p>① 善悪の規準を示し「だめなものはだめ」というぶれない指導を粘り強く行う。</p> <p>② 家庭や地域社会との連携を強化し、身近なルールやマナーを守ろうとする意識の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答において 96.6%を達成しており、前年度(96.1%)から微増した。</p> <p>【次年度の方針】 生徒一人ひとりの規範意識の向上が図れるよう、一層指導を強化していく。また、単に「だめ」と言うだけでなく、「〇〇できるとよい」「〇〇のところがよい」という賞賛を加えることができるよう工夫していく。</p>
	<p>A12 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 →80.7%</p>	<p>① 部活動や保健体育の授業において、健康増進・体力向上の基本知識を身につけさせ、さらに集団行動や学ぶ態度の習得を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答を80%を何とか達成した。昨年度からは、5.1%低下した。</p> <p>【次年度の方針】 部活動や保健体育の授業指導を継続させ、スポーツイベントや外遊びの奨励を行っている。</p>
健康・体力	<p>A13 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 →88.9%</p>	<p>① 給食指導を徹底し、食への意欲・関心を高めていく。</p> <p>② 保護者に「食育だより」を配付し、家庭への啓発活動を行う。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答 88.9%で、昨年より2.5%上回っているものの、教職員や保護者は75%と認識の仕方に大きく差がでている。</p> <p>【次年度の方針】 より一層の継続した給食指導と「食育だより」を通して家庭での協力を仰いでいく。</p>
	<p>B3 生徒は、部活動に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【数値目標】 生徒の肯定的回答 80%以上 →90.7%</p>	<p>① 部活動紹介を充実させ、部活動加入率の向上を図ると共に、指導方法の工夫をする。</p> <p>② 保護者に「部活動大会」の案内を配付し、理解と啓発を推進する。</p>	<p>【達成状況】 数値目標を10.7%上回る結果となった。部活動壮行会を実施し、生徒の意欲向上につながった。総体、新人で好成績を残す部がたくさん表れた。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取り組みを継続する。記録・広報を充実させ、広く周知する。</p>
学	<p>A14 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 →89.8%</p>	<p>① 各教科でグループ学習を積極的に取り入れ、話し合い活動を充実させるなど、学習活動の工夫を図る。</p> <p>② 習熟度指導やTTなど、個に応じた指導の充実に努める。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答において 89.8%を達成しているが、前年度(93.6%)を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 アクティブ・ラーニングの視点に基づき、主体的・対話的な学びの実現に向けて授業の研究を行う。</p>
習	<p>A15 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 →87.5%</p>	<p>① 「わかる授業」の実践を心がけ、学ぶ意欲や態度を育てる。</p> <p>② 年度当初にノート作りの約束事を決め、効果的且つ活用しやすいノートづくりを推進する。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答において 87.5%を達成しているが、前年度(93.0%)を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 授業の約束を徹底するとともに、「分かる授業」を実践するために授業研究会や一人一授業を実施して、授業力向上に努める。</p>

	<p>B4 生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【数値目標】 生徒の肯定的回答 80%以上 →76.4%</p>	<p>① 家庭学習の仕方等を示し、自学できる態度を養う。</p> <p>② 学級懇談や個人懇談等において、保護者への啓発を推進する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は76.4%であり昨年度(83.1%)より少し下がった。教職員の回答は昨年度より4.1%上がったものの34.4%と低く、生徒との認識の違いが明らかである。</p> <p>【次年度の方針】 家庭学習の習慣化が本校の大きな課題であり、宿題の出し方の工夫や自主学習のやり方の指導を継続しつつ、保護者への協力を促す。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B5 自分は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる。</p> <p>【数値目標】 生徒の肯定的回答80%以上 →63.6%</p>	<p>① 「わかる授業」の展開を中心に、学習意欲の喚起と家庭学習習慣の育成を図る。</p> <p>② 個に応じた言葉かけや支援及び生徒の良さを認めたまめ細やかな指導を心がける。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は63.6%で、前年度(70.6%)を下回った。 授業への取り組みは目標の数値を達成しているが、自分の意見を発表する等の積極性は乏しい。</p> <p>【次年度の方針】 発問の工夫や学び合い学習の場を意図的に設定したり、間違った意見を容認できる人間関係の構築を図る。生徒の良いところを「認める・ほめる・励ます」指導を徹底するとともに、学業指導を通じた自尊感情の向上や積極性を養う指導に努める。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

生徒の肯定的回答の数値が、昨年から若干の変動はあるものの安定してきている。このことは、生徒自身が学校が落ち着いた雰囲気であると感じ、安心をして学校生活を送れているからと考えることができる。

教職員も生徒指導に関わる時間が少なくなってきたことで、学習指導や部活動の指導を強化していけるという手応えを感じている。

その中で、今後はさらにあいさつや言葉づかい、さらに発表する等の「言語活動」「表現活動」を育成していく必要がある。良好な「言語表現活動」を推し進める上での基礎となる、コミュニケーション能力や人間関係の醸成なども引き続き育成する必要があると思われる。また、教職員も生徒の手本となる言動を意識しなければならない。

中学校だけでは課題の解決は不可能であるところから、小学校との連携を強化して9年間を見越した指導が重要である。乗り入れ授業や教職員の小中交流等を通して、連携を深めていくことが大切であると思われる。

さらに、保護者・地域住民が学校に対して好意的であるので、学校からの情報発信をさらに充実させて、協力を仰いでいくことも重要であろう。

6 学校関係者評価

- ・学校だけの取り組みでは限界があるので、様々な場面で家庭・地域に今後も協力してもらった方がよい。
- ・「いじめの指導」に関して、生徒の肯定的な割合はとても高いが、保護者の割合は高くないので情報をさらに発信し、取り組みを認識してもらった方がよい。
- ・「家庭学習への取り組み」に関して、生徒と教職員、保護者の間に認識の違いがある。生徒の肯定的な割合は割と高いが他の二者は高くない。取り組みには保護者の協力が必要であり、小中連携も必要になってくる。
- ・「落ち着いた学習」については、授業参観をしても宝木中はとても良くなっている。これを続けてもらいたい。
- ・「進んで挙手をする」は学年が上がるにつれて難しい。指名されれば答えている。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

これからは、学校、家庭、地域が様々な場面で連携し、協力していかなければ将来を担う生徒の健全な発達を促すことは難しくなってくる。その点本校の学区では、保護者・地域住民が本校に対して好意的であるので、情報発信を充実させることで、今まで以上の協力を仰いで行くことが可能であると考えられる。

本校が抱える学習面の課題にしても、コミュニケーション能力や自尊感情の欠如の問題にしても、課題の解決に向けては、三者の今まで以上の連携と、地域学校園が一体となって、取り組んでいかなければならないと考える。中長期的な方針を示し、発達段階に応じた実効性のある教育活動や支援を推進していきたい。